



島教協

《 すべては「子供たちのために」 》

## 情 報

http://  
www.kyougikai.orgE-mail  
office@kyougikai.org

〒693-0011 出雲市大津町2214 Tel/Fax:0853(22)7762 代表者 安達利幸 編集人 石原康博

No.605

## 出雲市教委 携帯メール緊急連絡網導入

## 出教協要望叶う！ 市内全小中学校へ

二月十八日（水）の新聞報道でご存じの方も多いと思うが、出雲市教育委員会は、平成二十一年度から出雲市内の全小中学校で、携帯電話のメールを使った保護者への緊急連絡網を導入する予定である。市内小中学校の中にはこうした緊急連絡網を導入し、すでに活用しているところもあつたが、来年度からは市内の四十九校すべてで活用されることとなる。システム導入費の財源は、国の地域活性化・生活対策臨時交付金を活用する。

出教協では、緊急時の連絡方法として、学校の回線が少ないことから、教職員個人の自宅の固定電話や携帯電話を使用することがあるため、学校の電話回線を増やすこと、あるいは緊急連絡システムの構築を要望していた。今回の携帯メールによる緊急連絡網の導入は、出教協の要望が反映されたものといえる。これにより、保護者が不在の場合も家庭に情報が届きやすくなる。ただし、保護者がメールアドレスを登録しなければ情報の送信はできないため、できるだけ多くの保護者が登録されることを望む。

携帯メールは、災害や不審者、集団風邪等による学級閉鎖、学校行事の中止といった情報を一括送信し、伝達時間を大幅に短縮することができる。今後は、こうしたメールを使った連絡の活用が工夫されることとなる。

また、携帯電話の活用にあたっては、利便性だけでなく、情報モラルの観点から、学校・保護者・子どもが一緒になって考えるよい機会となることを期待している。

島教協では、今後、県内の他の市町村教委に対して、緊急時の連絡システムの構築を訴えていく考えである。

## 島 教 協 平成21年度役員選挙告示

島根県教職員協議会規約第4章第17条に基づく役員選挙規定に従って、平成21年度役員選挙に関し、下記のとおり告示します。(選挙管理委員長)

<input type="checkbox"/> 島教協役員選挙告示	3月23日(月)
<input type="checkbox"/> 立候補届け出締切	4月2日(木)
<input type="checkbox"/> 公示	4月2日(木)
<input type="checkbox"/> 投票	4月22日(水)
<input type="checkbox"/> 開票	4月23日(木)

■選挙により選出される役員は、次の通りとする。(規約第15条に基づく)

会長(1名)、副会長(若干名)  
事務局長(1名)、事務局次長(若干名)  
執行委員(若干名)、監査委員(2名)

■立候補する会員は、立候補届に、立候補者を推薦しようとするときは、所用の用紙に定められた事項を記入し選挙日10日前にまでに選挙管理委員会(事務局)に提出下さい。(用紙は事務局内にあります)

なお、立候補者がその役員の定数を超えないときには、信任投票を行います。  
選挙管理委員会は事務局内に設置します。(役員選挙規定に基づく)



大臣科学部文部科学大臣塩谷を挨拶をする

二月二十八日(土)、全日教連結成・教文研設立二十五周年の記念躍進大会を開催した。

来賓には、塩谷文部科学大臣をはじめ、衆議院議員の島村宜伸氏、古屋範子氏、台北駐日経済文化代表処から林黙章氏、他多数の方々をお迎えした。

はじめに全日教連の植田宏和委員長は、規範意識、倫理観の低下など様々な問題が取りざたされる中、日本の未来・子供たちのために、日本の教育を全日教連がリードしていくと挨拶をした。

続いて、教文研の森隆夫所長は、日本文化の奥ゆかしさ、武士道にみられる頼もしさ、自然との共生をキーワードに、挨拶をした。

記念講演は、PHP総合研究所社長の江口克彦氏が、「松下幸之助に学ぶ人の育て方」と題して、松下幸之助氏とのエピソードを交えながら、人の育て方について語られた。自分の夢を語る、率先垂範、人の悪口を言わないなど、学校教育に繋がる内容に参加者は熱心に耳を傾けた。



氏彦克江口をする講演

教員免許  
更新制  
最新情報

協一成更報てイツ講あ  
島一ム平の情し。ネるも  
ホームに、度習載す。一よ  
ホジに、年講掲ま。タに情  
21新をい。ント習り

島教協 第125回代表者会

三月二十日(金)、島教協は、第一二五回代表者会を開催した。二十年度の活動報告と二十一年度の活動計画について審議され、承認を得た。

組織拡大に向けた話し合いの中で、事務局長から、「近年の辞・退職者の増加に伴う会員数の減は、組織運営上、無視できない状況にある。来年度は、『教育シンポジウム島根』の開催が予定されていることから、これをよい機会に島教協を県内教職員にさらにアピールし、加入促進を最重要課題として取り組んでいく必要がある。新たな会員獲得のために力をお貸し願いたい」と話があった。

退任の挨拶

第十五代専従 石原康博

この度、専従の職を退任することとなりました。二年前は、専従としての仕事を終えたら、きつといういろいろなことがよくわかって、成長しているのだろうと期待していたのですが、相変わらず、わかっていることだらけで、内心「トホホ」状態です。ただ、県内の小・中学校をまわり、多くの会員の皆さんに会ってお話が聞けたこと、県内外に「子どもたちのために」ともに汗を流し、語り合える仲間ができたことは、自分にとっての財産です。ありがとうございます。

「一人のつぶやきは愚痴に過ぎないが、組織になれば要望として行政に届けることができる。」専従になる前に事務局の方から言われた言葉を常に心にとめて、活動をしてきました。また、教職員の資質向上のための研修活動はできることを精一杯したつもりですが、至らなかつた点が多々あったと思います。この場をお借りしてお詫び申し上げます。

島教協に集う会員の皆さんは、教育専門職であるという誇りと「子どもたちのために」という気持ちに溢れています。それをこれからの島根の教育に活かしていくためには、さらに会員を増やしていく必要があります。県財政は非常に厳しい状況です。そんな今だから、現場の声を届ける組織の力が非常に重要です。今後とも、島教協へのご理解ご協力の程よろしくお願ひ申し上げます。